

注意：ジュネーブ時間（グリニッジ平均時+2、東部夏時間+6）の2017年6月15日午前10時前には一切発表しないでください

## グローバル・イノベーション・インデックス2017：スイス、スウェーデン、オランダ、米国、英国が上位に

ジュネーブ（スイス）、2017年6月15日 - コーネル大学、欧州経営大学院（INSEAD）、世界的所有権機関（WIPO：World Intellectual Property Organization）が本日発表したグローバル・イノベーション・インデックス（GII）では、スイス、スウェーデン、オランダ、米国、英国が2017年度のランキング上位を占めた一方で、新興国ではインドやケニア、ベトナムがランクインしました。

今回の調査では、インドがアジアの技術革新の中心であり、アフリカ地域ではサハラ以南の技術革新が著しい一方で、中南米地域やカリブ海地域での開発や技術革新機会が遅れていることが浮き彫りとなりました。

毎年、GIIは特許登録検数や教育への公的支出など、130カ国を超える国や地域をさまざまな指標に基づき評価し、急速な経済成長や社会発展を促す技術革新活動の概要を政策立案者に伝えています。GIIの新セクション「技術革新ホットスポット」では、国際特許の出願が最も多い地域がすぐに分かるようになっています。

第10版となる2017年度のGII（GII 2017）では、先進国と新興国の技術革新能力には依然として差があり、官民いずれの部門も研究開発（R&D）の成長率が低調であることを指摘しています。

WIPOのフランシス・ガリ事務局長は、「世界経済はナレッジベースの重要性が急速に進んでおり、技術革新は経済成長を牽引しますが、人間の創造性や経済生産性を向上するためには、より多くの投資をする必要があります。技術革新は現在の好景気を長期成長へと変える力があります。」と言います。

### 世界ランキング

1	スイス（2016年第1位）	14	日本（同第16位）
2	スウェーデン（同第2位）	15	フランス（同第18位）
3	オランダ（同第9位）	16	香港（中国）（同第14位）
4	米国（同第4位）	17	イスラエル（同第21位）
5	英国（同第3位）	18	カナダ（同第15位）
6	デンマーク（同第8位）	19	ノルウェー（同第22位）
7	シンガポール（同第6位）	20	オーストリア（同第20位）
8	フィンランド（同第5位）	21	ニュージーランド（同第17位）
9	ドイツ（同第10位）	22	中国（同第25位）

10	アイルランド (同第7位)	23	オーストラリア (同第19位)
11	韓国 (同第11位)	24	チェコ共和国 (同第27位)
12	ルクセンブルク (同第12位)	25	エストニア (同第24位)
13	アイスランド (同第13位)		

2017年度、スイスは7年連続で首位を維持し、第22位につけた中国を除き、トップ25には24の高所得国が名を連ねました。2016年度には、中所得国として初めて中国がトップ25にランクインしました。

「先進国と新興国間の技術革新の差を埋めるための取り組みは、各新興国がそれぞれの技術革新における強みと弱点を把握し、適切な政策や指針を導入できるように促していくことから始まります。」と、コーネル大学 Cornell SC Johnson College of Businessのソウミトラ・ドゥッタ (Soumitra Dutta) 学部長は言います。「これこそ、GIIが10年以上目指してきたことです。」

中所得国および低所得国では、その技術水準から予測されるよりも非常に高い技術革新が行われています。本年度は、昨年度をやや上回る17国が「優れた技術革新を達成した国」と評価されました。その中では、ケニアやルワンダなど、サハラ以南のアフリカ地域から9カ国、東欧諸国から3カ国が名を連ねました。

技術革新が著しい中国や日本、韓国に続き、インドネシアやマレーシア、シンガポール、タイ、フィリピン、ベトナムなどのアジア諸国がそれぞれの技術革新環境を整備するために積極的に取り組んでおり、教育や研究開発、生産性の伸び、ハイテク製品輸出高など、複数の主要指標で高いランクにつけています。

## GII 2017のテーマ：「世界に食料を供給する技術革新」

GII 2017のテーマである「世界に食料を供給する技術革新」は、農業分野やフードシステムでの技術革新を見据えています。今後数十年に渡り、農業分野と食品分野は世界的な食料需要の著しい増加と天然資源が限られている中での競争激化が予測されています。また、気候変動に適応し、気候変動の程度を軽減していく必要があります。技術革新は、この増加する需要を満たし、持続可能な食料生産、加工、流通、消費、処理までの一連の領域や産業をつなぐネットワーク「フードシステム」の向上を促すのに必要な、生産性の伸びを持続させる鍵となります。

「ドローンや衛星技術を用いたセンサーやフィールドロボットなどを活用した『デジタル農業』が世界中で急速に広まっています。」と語るのは、INSEADのブルーノ・ランヴァン世界指標上

級ディレクターです。「現在、世界の最貧困層のニーズを満たしながら、供給・流通チェーンを最適化し、土地やエネルギーを始めとする天然資源への負担を最小限に抑える、創造的で新たなビジネスモデルを推進する『スマート農業』が早急に求められています。」

PwCの戦略コンサルティング事業部であるStrategy&のバリー・ジュールゼルスキー主席は、「2050年までに、世界人口は97億人に到達すると予測され、これは世界中の農業部門に厳しい課題を突きつけています。政策立案者を始めとするステークホルダーが生産性を劇的に改善する農業技術革新を導入しない限り、世界的な食糧危機が起こる可能性があります。」と予測します。

### 地域のイノベーションリーダー

地域/ランク	国	GII 2017年度ランク
<b>北米</b>		
1	米国	4
2	カナダ	18
<b>サハラ以南のアフリカ</b>		
1	南アフリカ	57
2	モーリシャス	64
3	ケニア	80
<b>中南米・カリブ海</b>		
1	チリ	46
2	コスタリカ	53
3	メキシコ	58
<b>中央アジア、南アジア</b>		
1	インド	60
2	イラン・イスラム共和国	75
3	カザフスタン	78
<b>北アフリカ・西アジア</b>		
1	イスラエル	17
2	キプロス	30
3	アラブ首長国連邦	35
<b>東南アジア・東アジア・オセアニア</b>		
1	シンガポール	7
2	韓国	11
3	日本	14
<b>欧州</b>		
1	スイス	1
2	スウェーデン	2
3	オランダ	3

### 北米

北米2国（米国（世界ランク第4位）とカナダ（同第18位）の金融市場は極めて洗練されている上、ベンチャーキャピタルの活動も盛んで、民間部門の経済活動が活性化されています。

また、米国では、世界的な研究開発、優れた研究論文、ソフトウェア投資、数々の技術革新に貢献している優秀な大学や企業の存在も強みとなっています。

一方のカナダは、起業し易い環境にあり、研究論文の質も高く、その政治、規制、ビジネスを取り巻く環境は世界トップクラスです。カナダは教育システムも改善してきました。

## 欧州

本年度のGIIでは、トップ25中15位が欧州勢で占められていました。欧州は、人的資本や研究、インフラストラクチャ、ビジネスの高度化に特に秀でています。

欧州諸国は、知識集約型雇用、大学/産業共同研究、特許出願、科学的/技術的記事発表、研究論文の質など、GIIを構成する全指標の約半分で首位につけています。

## 東南アジア・東アジア・オセアニア

韓国は特許出願やその他の知的財産権関連の総合指標で首位を維持する一方、人的資本や研究、さらに研究開発の取り組みへの民間部門の貢献度では、第2位につけています。

この地域で第3位につけている日本は、研究開発、情報通信技術、貿易、競争力、市場規模、知識吸収力、創造性、普及に優れており、世界ランクでは第10位となっています。

中国はビジネスの高度化、知識と技術のアウトプットで高い評価を得ており、GIIランクを改善し続けています（本年度は世界ランク第22位）。本年度、中国は、世界的研究開発企業の存在、企業部門での優れた研究員の存在、特許出願、その他の知的財産権関連指標など、複数の指標で高得点を得ています。

東アジア諸国連合（ASEAN）の中では、シンガポールが、次の指標を例外とし、ほとんどの指標で首位となりました。ICTサービスの輸出ではフィリピンが、教育への公的支出ではベトナムが、それぞれ首位に立っています。

タイは、創造力を活かした商品の輸出と、企業による研究開発費総額（GERD）で得点を伸ばし、これらの指標では、それぞれ世界ランク第5位と第6位につけています。

ベトナムは教育への公的支出で地域第2位につけており、労働生産性の伸び、経済全体の投資、海外直接投資収支でも高い評価を得ています。

マレーシアはハイテク製品の輸出入、大学/企業の共同研究、科学や工学分野の卒業生数で上位にランクインしています。

## 中央アジア・南アジア

世界ランク第60位のインドは、中央アジア・南アジア地域で首位につけており、1人当たりGDPにおける技術革新は、7年連続で他諸国より優れた評価を得ています。インドでは、インフラストラクチャ、ビジネスの高度化、知識と技術のアウトプット、創造的なアウトプットなど、ほとんどの分野で改善が見られました。

世界的研究開発企業の存在では、インドは世界ランク第14位につけており、これは、低所得国および高中所得国の比較可能な諸国群の中でも突出しています。また、インドは、インプットの側面では、科学や工学分野の卒業生数、総資本形成、企業によるGERD、優れた研究員の存在、アウトプットの側面では、研究論文の質、労働者1人あたりのGDP伸び率、ハイテク・ICTサービスの輸出、創造力を活かした商品の輸出、ハイテク製品の製造、知的財産権取得数において、他のほとんどの中所得国を上回っています。

「技術革新を促進する環境作りには適切な公共政策が重要となります。過去20年間、インドでは、技術革新政策と技術革新評価指標に基づき、技術革新とコンサルティングを行う特別委員会を創設するなど、GII指標と関連する分野で重要な活動が行われてきました。」と、インド工業連盟のチャンドラジット・バナージー会長は言います。

イラン・イスラム共和国（世界ランク第75位）は、第3期の教育に優れており、科学や工学分野の卒業生数では世界ランク第2位につけています。タジキスタン（同第94位）はマイクロファイナンスローンで、カザフスタン（同第78位）は1教師当たりの生徒数でそれぞれ首位に立ち、また、カザフスタンは少数民族投資家の保護の容易さでは第3位につけています。

## 北アフリカ・西アジア

イスラエル（世界ランク第17位）とキプロス（同第30位）は、5年連続でこの地域のツートップを維持しています。イスラエルは、研究者数、ベンチャーキャピタル活動、企業によるGERD、企業部門での優れた研究員の存在で世界上位を占める一方で、研究開発費総額とICTサービス輸出を改善しました。

地域第3位のアラブ首長国連邦（世界ランク第35位）は、データ可用性を向上させたことによりランクを上げ、3次インバウンドモビリティや、技術革新数、ICT主導型ビジネスモデルイノベーションで高い評価を得ています。北アフリカ・西アジア地域全19カ国中16カ国が世界ランクトップ100にランクインしています。内訳は、トルコ（世界ランク第43位）、カタール（同第49位）、サウジアラビア（同第55位）、クウェート（同第56位）、アルメニア（同第59位）、バーレーン（同第66位）、グルジア（同第68位）、モロッコ（同第72位）、チュニジア（同第74位）、オマーン（同第77位）、レバノン（同第81位）、アゼルバイジャン（同第82位）、ヨルダン（同第83位）となっています。



## 中南米・カリブ海

中南米・カリブ海地域最大の経済国（チリ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン）は、公的機関、インフラストラクチャ、ビジネスの高度化で特に高い評価を得ています。チリ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチンは、大学の質、第3期教育入学率、世界的研究開発企業の存在などの人的資本や研究分野に優れており、また、政府のオンラインサービスおよびオンライン普及率が高いことにより、情報通信技術でも高い評価を得ています。

近年、他地域と比較し、この地域のGIIランキングは大きく改善しておらず、その経済成熟度に照らして、優れた技術開発を実現した国は中南米・カリブ海地域では1つもありませんでした。

「中南米、特にブラジルでは、成長率がプラスに転じており、技術開発に基づく開発を行うための基盤を整備することが不可欠で、これは、イノベーション主導型事業開発機関（Mobilização Empresarial pela Inovação - MEI）最大の目標となっています。」と、CNIのロブソン・アンドラーデ会長とブラジル零細・小企業支援サービス公社のヘロイーザ・メネゼス技術ディレクターは言います。

## サハラ以南のアフリカ

サハラ以南のアフリカ地域は、公的機関と市場の高度化で最高得点を得ており、モーリシャス、ボツワナ、南アフリカ、ナミビア、ルワンダ、ブルキナファソなどでは、同じ経済成熟度にある欧州、東南アジア・東アジア、オセアニアの諸国と同等か、これを上回る評価を得ています。

2012年以降、サハラ以南のアフリカ地域は、世界随一の「優れた技術革新を達成した国」輩出地域となっています。ケニア、ルワンダ、モザンビーク、ウガンダ、マラウイ、マダガスカル、セネガルは、本年度だけではなく、過去にも複数回「優れた技術革新を達成した国」に選出されています。ブルンジとタンザニアは、本年度、「優れた技術革新を達成した国」に選出されました。サハラ以南のアフリカ地域では、この技術革新の勢いを維持し、この勢いに乗って経済を構築していくことが鍵となっています。

## グローバル・イノベーション・インデックスについて

今年で第10版となるグローバルイノベーションインデックス2017 (GII) はコーネル大学、INSEAD、世界知的所有権機構 (WIPO は国連の専門機関) によって共同発表されています。

GIIは2007年以降毎年発表されており、世界中の企業幹部、政策立案者、そして技術革新評価者が参考にする主要評価指標の1つとなっています。政策立案者、ビジネスリーダー、その他のステークホルダーは、国の進歩を継続的に評価する際にGIIを参考にしています。本年度の調査は、インド産業連合 (Confederation of Indian Industry) 、PwCのStrategy&、ブラジル全国工業連盟 (Confederação Nacional da Indústria - CNI) 、ブラジル零細・小企業支援サービス公社 (Serviço Brasileiro de Apoio às Micro e Pequenas Empresas - Sebrae) がナレッジパートナーズとして共同参画し、国際的な有識者諮問委員会の協力を得て実施されました。

GII報告書の中心となるのは、世界経済の技術革新能力とこれによる成果です。GIIは、経済発展と繁栄のための推進力としての技術革新の役割と、先進国と新興国の両経済に適用できる技術革新の広範なビジョンの必要性を認識しており、研究開発のような従来型技術革新評価基準を超えた指標を含んでいます。

世界規模での技術革新に関する議論をサポートし、適切な政策立案のための指針を提供し、優れた実例を紹介するため、技術革新と関連政策の有効性を査定できる評価基準が不可欠です。GIIは、下記の項目を含め、技術革新要因が継続的に評価できる環境を提供しています。

- ・ データ、ランキング、強みと弱点などの情報を含めた128カ国のプロフィール
- ・ 30種類以上の世界中の公的および私的情報源の指標で使用される82種類のデータテーブル (内訳は、58種類のハードデータ、19種類の複合指標、5種類のアンケート調査結果)
- ・ 各指標ランクに対する90%の信頼区間など、透明性が高く再現可能な計算方法 (GIIおよびアウトプット/インプットのサブインデックス) と、前年からのランク変動要因分析

GII 2017は、2つのサブインデックスの平均として計算されます。技術革新インプットのサブインデックスは、次の5つの柱に分類される技術革新活動を行う国家経済要素を評価します：

- (1) 公的機関、
  - (2) 人材と研究能力、
  - (3) インフラストラクチャ、
  - (4) 市場の高度化、
  - (5) ビジネスの高度化。
- 技術革新アウトプットのサブインデックスは、次の2つの柱で構成される、技術革新の目に見える成果を評価します： (6) 知識と技術のアウトプット、 (7) 創造的なアウトプット。

本指標はEC共同研究センター (Joint Research Centre of the European Commission) によって、独立系統計監査機関に提出されます。報告書全文はこちらのサイトからダウンロードできます：[www.globalinnovationindex.org](http://www.globalinnovationindex.org)。

## コーネル大学について

コーネル大学は研究で優れた成果を出している私立大学で、ニューヨーク州立大学と提携しています。ニューヨーク州から公有地を提供されており、ニューヨーク州、米国、そして世界全体の生活水準向上をサポートするという公共福祉を最優先事項として掲げ、あらゆる知識分野に貢献する責任があります。コーネル大学は、他組織や他分野と連携し、より柔軟で、これからのビジネスを反映した、新しいビジネス教育モデルを構築しています。コーネル大学のCornell SC Johnson College of Businessは、Charles H. Dyson School of Applied Economics and Management、School of Hotel Administration、Samuel Curtis Johnson Graduate School of Managementという高い評価を得ているビジネススクール3校の強みを統合させ、学生1人ひとりがコーネル大学のこのような統合ビジネス教育によるメリットを享受して、より多くの学位を取得することができるだけでなく、幅広い講師陣や資源、専門知識から幅広く学べるようにしています。実社会の課題を解決する場合でも、特定業界に対する知識を深める場合でも、Cornell SC Johnson College of Businessは、他にはない有意義かつ永続的なメリットを提供しています。

## INSEAD：世界にキャンパスを展開するビジネススクール

世界有数かつ最大規模のビジネススクールであるINSEADは、生活に変化を、組織に変革をもたらすため、多様な国籍、文化、視点を受け入れています。グローバルな視点と文化の多様性は、INSEADの研究およびプログラムのあらゆる側面に反映されています。

欧州（フランス）、アジア（シンガポール）、中東（アブダビ）にキャンパスを構えたINSEADのビジネスプログラムと研究は、3大陸にまたがり展開されています。約80カ国から著名な145名の教授を迎え、毎年1,400名を超える学生にMBA、エグゼクティブMBA、財務エグゼクティブ修士、変化のためのコンサルティング・コーチング・エグゼクティブ修士、博士の各プログラムなどを提供しています。さらに、毎年11,000名以上のエグゼクティブが INSEADのエグゼクティブ教育プログラムに参加しています。

INSEADは、数十年に渡り世界中で最先端研究を行い、同校が提供する全プログラムを進化させ続け、世界中のどこでも適用できる知識と適応性をビジネスリーダーに提供しています。これらの特色は、INSEADを真の「グローバル・ビジネス・スクール」たらしめています。

INSEADのMBAプログラムは、2016年、2017年と2年連続でFinancial Timesに世界ランク第1位に選出されています。

## WIPO について

世界知的所有権機構(WIPO)は、知的所有権政策、サービス、情報、協力のために設立された国際機関です。国連の専門機関である WIPOは、進化し続ける社会のニーズを満たすため、バランスの取れた国際知的所有権の法的枠組みを加盟国189カ国が構築できるように支援しています。また、複数の国で知的財産権の保護権利を取得したり、紛争解決したりするためのビジネスサービスも提供しています。さらに、新興国が知的所有権の使用からメリットを享受できるよう能力強化プログラムを提供したり、WIPOが独自に開発した知的所有権情報のナレッジバンクを無償で利用できるようにしたりしています。



## ナレッジパートナーズ

2017年度は、インド産業連合（Confederation of Indian Industry）、PwCのStrategy&、ブラジル全国工業連盟（Confederação Nacional da Indústria - CNI）、ブラジル零細・小企業支援サービス公社（Serviço Brasileiro de Apoio às Micro e Pequenas Empresas - Sebrae）が、ナレッジパートナーズとして共同参画しました。

ナレッジパートナーズは国家の競争力の向上、経済発展の実現、社会変化の推進、国家の未来の基盤作りに技術革新が果たす役割を高く評価しています。

ナレッジパートナーズは、有益で隔たりのない知識源を提供することに尽力し、分析を助け、あるいはGII報告書に掲載できる実例を提供し、またはGII調査結果にフィードバックを提供し、その普及に携わることで、GIIに貢献しています。

### CIIについて

インド産業連合(CII) は、諮問・コンサルティング機関として産業や政府と連携し、インド国内産業の発展を促進する環境作りや維持に尽力しています。CIIは産業が運営管理を行う非政府・非営利組織で、インドの発展に重要な役割を担っています。1895年の創立以来、インドを代表する産業団体として、SMEやMNCなどの官民部門から8300組織が正会員として加盟し、世界約250の国と地域の幅広い産業から20万社以上の企業が準会員として加盟しています。

### Strategy&について

Strategy&は、クライアントが競争的優位を確保するのを助け、実践的な戦略策定を行うグローバルなチームです。クライアントと共に困難な問題を解決し、大きな機会を実現するお手伝いをしています。100年に渡る戦略コンサルティングの経験と、PwCネットワークの持つ比類のない業種別、機能別のケイパビリティとを提供します。Strategy&は、世界157カ国に223,000人以上のスタッフを擁し、監査、税務、アドバイザーの各種サービスを提供するPwCネットワークの一員です。

### CNI Sebraeについて

ブラジル全国工業連盟（Confederação Nacional da Indústria - CNI）は、ブラジル国内の工業を代表する最上位組織です。1938年の設立以来、CNIは国内ビジネスと製造業の利益擁護に取り組み、政府の行政、立法、司法の各機関やブラジル内外の各種機関や組織と交渉を行っています。ブラジルを構成する27州の地方工業連盟と約70万社が加盟している1,250の業界団体を統括しています。さらに、CNIは、工業社会サービス（Serviço Social da Indústria - SESI）、全国工業職業訓練機関（Serviço Nacional de Aprendizagem Industrial - SENAI）、エウヴァウド・ロヂ研究所（Instituto Euvaldo Lodi - IEL）を直接的に管轄しています。

ブラジル零細・小企業支援サービス公社（Serviço Brasileiro de Apoio às Micro e Pequenas Empresas - Sebrae）は、小企業の持続可能性と競争力開発を促進するための非営利の民間組織です。その経験により、ブラジル国内の小企業の開発の専門組織となっています。Sebraeは、起業家を育成し、小企業が成長してより多くの雇用を創出できるよう支援し、ブラジル経済の発展を支えています。また、国内700箇所に現地サービスセンターで構成されるネットワークを構築しています。5,000名を超える小企業専



門家を擁し、多数の外部コンサルタントと連携し、会社経営者または起業を計画している人々に知識とノウハウを伝えています。

プレス関連の連絡先			
組織	名前	電子メール	電話
Cornell University	Sarah Magnus-Sharpe	sm2374@cornell.edu	+1-607-254-7109
INSEAD Europe	Sophie Badre	<a href="mailto:sophie.badre@insead.edu">sophie.badre@insead.edu</a>	+33 1 60 72 4526 +33 6 86 07 33 75
WIPO	Samar Shamoon Edward Harris	<a href="mailto:samar.shamoon@wipo.int">samar.shamoon@wipo.int</a> <a href="mailto:edward.harris@wipo.int">edward.harris@wipo.int</a>	+41 22 338 8161 +41 22 338 7224